第１回　柏市いじめ重大事態調査検証委員会報告書提言等の対応に関するアドバイザリーボード　報告書

１　第１回アドバイザリーボードの概要

(1) 実施日時

令和４年５月２１日（土）１８時から１９時２０分まで

(2) アドバイザリーボード委員

【委員長】黒木委員，【副委員長】原委員，岡崎委員，高委員，林委員，柗冨委員，八重樫委員

＜教育委員会＞

田牧教育長，宮島生涯学習部長，三浦学校教育部長，原田学校教育部理事，松澤学校教育部次長兼学校教育課長，福島教職員課長，並木指導課長，藤崎児童生徒課長，中村市立柏高等学校長

２　質疑の内容

(1) 事務局より報告

①福島教職員課長から，提言の内容，提言に対する課題認識，今後の方向性についての説明

②中村市立柏高等学校長から，学校の現状についての説明

(2) 委員からの御意見・御質問及び答弁の概要

学校に対する提言（体制・部活動について）

◆Ａ委員

・（いじめ生活アンケートを学期ごとの実施から月に１回に増やすとの説明を受けて）現場は非常に大変。アプリなどのＩＣＴツールを活用し，生徒や保護者が入力したものをピックアップする手法はいかがか。

・大学では教員の授業査定で活用している。「授業のわかりやすさ」などの項目を４段階で入力。工夫することができれば，国の指針に従ったアンケートも実施可能と考える。

・負担を「人力」から「機械（ＩＣＴ）」にすべき。ただ，アンケート後の処置・対応はこれまでと同様。相談・ＳＯＳを必要なタイミングで発信できる仕組みが必要。

◆Ｂ委員

・外に向けて自分から意思表示できない者への対応が難しい。

◆Ｃ委員

・柏市単独では難しいかもしれないが，アンケートを実施するならば同じ内容で標本数が多い方がいい。データ量も増え，ＡＩなどを駆使すれば有効な分析ができる。個別学校レベルでの対応も必要だが，予知の発見が重要。国へ提言しても良いのではないか。

・２００人を超えるような規模だと，生徒ひとりひとりを見ることは困難。一部・二部・三部・などして，（グループとしての）上限（人数の）設定なども必要なのではないか。

◆Ｄ委員

・定期的なストレスチェックについて。ＳＮＳとかアプリでもＳＯＳを出さない生徒は出さない。だが，定期的なチェックで高リスク者は出てくる。それに丁寧に対応していくことが大事。そにに組織的な分析も行われ，問題点が浮かび上がってくる。それが，事故予防や管理研修等にもつながっていく。

・部活動の顧問やトレーナに，メンタルヘルス系が誰もいない。過労になるくらいの練習に歯止めがかからなかった，意識や認識の不足があった，そこを強化できるようにすべき。制度的にはストレスチェックを行い，専門的な人も関わっていくべき。

・近隣の学校で，教頭先生が産業カウンセラーの資格を取得したと聞いた。ライン管理に携わる人がメンタルヘルスの知識を持つことは良い。教員に対しても同じ意識が必要。未然防止が重要。

◆Ｂ委員

・ストレスチェックは５０人以上の従業員がいる事業所では義務化されている。高ストレス者への予防に効果がある。

◆Ｅ委員

・人感センサーやＩＣＴ活用による行動の把握は良いとは思うが，プライバシーの確保という点で，生徒の管理が行き過ぎないように気を付ける必要がある。現時点で認識しておくべき。全ての情報が保護者に伝わることが問題（逆効果）になることもある。

・先生や学校，生徒に対する対策がほとんどだが，部員間での取り組みもあって良いのではないか。吹奏楽は男性部員が少ない。女性ば

かりの中で，気持ちを打ち明けにくい男子生徒もいるはず。部全体・学年ごとなどでも良いので，悩み発見のきっかけづくりに努めてほしい。

◆Ｆ委員

・（これまでの意見で）学校の負担増となる話があったが，先生の負担が大きくなることで，子どもへの目が行き届きにくくなることは間違いない。効率的かつ効果的な実施が求められる。生徒への面談もやり方によっては負担になる，実施方法は要検討。

・他市で採用している相談アプリは医師へ相談できる機能も有している。スクールソーシャルワーカーが居なかったとあるが，つくば市ではかなり増やしている。効果がある。

◆Ｇ委員

・部活動は朝早く帰りも遅い。保護者の送り迎え（特に迎え）が必要となり，そこに対応できないがために市柏を諦めるという声も聞く。アプリなどにより，下校連絡などが入れば，保護者は安心する。

◆Ｂ委員

・当該生徒へのアンケートについて違和感を感じたのは，「いじめられている」に該当があったこと。特殊な事案だが，単なる鬱には見えない。アンケートの「いじめられている」は実際に被害的なものがあったのかもしれない。本人の中で色々なことが頭にあり，先生・スクールカウンセラー・保護者とうまく体制が整っていれば，うまく医療機関に繋げられたかもしれない。

柏市に対する提言・全国への提言・その他 について

◆Ａ委員

・高校で管理職を務めていた際，例えば「要注意生徒に対する保護者へ連絡するガイドライン」など，分かりやすいルールを作った。先生は（判断に対する）基準線があると動きやすい。この生徒のＳＯＳは，欠席数の増加など気付きもあった。精神と身体のバランスが崩れる生徒を早く拾えるようなガイドラインがあると，先生が動きやすくなるのではないか。

◆Ｄ委員

・事件後の対応について，報告書でも指摘されている。今回の衝撃的

な事案に対し，悲しい気持ちのまま「部活動に集中しよう」となった生徒の気持ちは，トラウマみたいに今後も残っていく。「命に対する不確かさ」みたいなものを持ってしまう。ファーストエイド，初動が大事。専門家と連携すべき，学校の先生やＳＣだけでは足りない。良い体制ができるようになることを望む。

◆Ｅ委員

・条例改正とあるが，学校現場では，いじめ防止対策推進法など法的な話や書類等も必要になる。それに対する人材の確保や予算も必要。スクールカウンセラーの話があったが，スクールロイヤーの配置も進んでおり，学校からの法的な相談に乗ったりしている。トラブルに対し，先生の判断では難しいケースに対応できる。

◆Ｇ委員

・訪問演奏の負担の認識不足とあるが，演奏を依頼するときは，どこに依頼するようになっているのか。

⇒各学校から顧問に連絡が入る。顧問がＯＫとなれば，各学校の校長から正式に依頼が入る。

◆Ｆ委員

・部活動について，資料だけでは分からないが，学校の体制が原因で歯止めがかからない状況になってのではないか。学校経営の中で部活動のウェイトが大きくなりすぎたのではないか。市柏だけではなく行政同士の連携も図らなければならない。

◆Ｂ委員

・部活動が異常な時間となっている，月１００時間以上。労働関係では，１００時間以上の労働は，何かあった際には業務起因性となる。部活動の時間がどう生徒の日常に食い込んでいるのかよく調査すべき。自殺の事案を通して，自殺予防に繋げられる。

・生徒は目標に向けて一生懸命。部活動と健康管理を両立できるような良いプランができれば。